

第1学年1組 算数科学習指導

指導者 T1 高橋みさ江  
T2 大木 智美  
T3 羽田由美子

1 単 元 ひきざん

2 目 標

- くり下がりのある減法の計算を用いて身の回りの問題を解決するなど、減法を生活や学習の中で活用しようとする。  
(算数への関心・意欲・態度)
- くり下がりのある減法の計算方法を10のまとまりから1位数をひくことに着目して考えることができる。  
減法の式と絵を見て、減法の問題を作ることができる。  
(数学的な考え方)
- 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になるくり下がりのある減法の計算が正しくできる。  
(数量や図形についての技能)
- 10いくつから1位数をひいて、差が1位数になるくり下がりのある減法の計算方法が分かる。  
(数量や図形についての知識・理解)

3 指導にあたって

本単元では、10いくつから1位数をひいて差が1位数になる減法の意味と計算の仕方を理解し、計算に習熟できることをねらいとしている。

本学級の児童は、問題解決のためにブロックを活用している。そこで、減数が10に近い数字の場合は10から引く減加法を指導し、ひき算の定着を図っている。また「たしざん」や「ひきざん」の学習において、示された絵や文章から場面に合った式を立てて答えを求めるために、数字や演算決定の言葉に着目させ赤丸を付けて問題解決をさせている。そのため、文章題から立式することは比較的よくできているが、式から文章題（お話）を考えると抵抗があり、とまどう児童が多い。

この単元を指導するにあたり、プレテストを実施したところ、次の結果になった。

①と②の結果から、誤答として多かったのは、演算決定を表す「のこりは」「どちらが」「ちがいは」などの言葉がなかったこと、また、たし算と混同してしまい「みんなで」の言葉を使っている児童がいた。③は減法がどのような場面で適用できるのか分からないため、全く作問ができなかった児童が多かった。④は、公園の様子からいろいろな文章題を作ることができるように場面を設定したが、作問例のほとんどが減少場面としてとらえた文章題を作っており、比較場面を想定することは児童にとって難しいことが分かった。

<本単元に関わるプレテスト>

(平成25年11月12日実施 第1学年19人)

問 題	正答者数	誤答・無答者数
① つばめの絵を見て8-5のお話をつくる。(減少)	10人	9人
② 子どもの絵を見て8-5のお話をつくる。(比較)	3人	17人
③ 7-3の式から減少または比較のお話をつくる。	4人	15人
④ 公園の絵を見て、減少や比較のお話をつくる。	・1問6人 ・2問4人 ・3問1人	8人

指導にあたっては、自分で具体物や半具

具体物を操作したり、図を描いたりする活動を通して、計算の意味や仕組みを正確にとらえることができるようにしたい。また、児童が次第に念頭で考えることができるようにしていくために、操作活動を取り入れて、減加法や減々法が効果的であることに気付くように支援していきたい。さらに、ひき算の意味をより深く理解させるために、全学年を通して苦手とされている「式」から文章題を考える学習をていねいに扱い、式から具体的な数量の関係や場面に合う文章題（お話）を考える学習を通して、式を「算数のことば」としてとらえられるようにしていきたい。

一人一人の児童の考え方を生かすように、学習がスムーズに進まない児童に、数量や場面を示したヒントカードやワークシートを活用しながら個に応じた指導をし、ひき算のお話のパターンを身に付けさせることで、自力でお話づくりができるようにさせたい。自力で課題解決できる児童に対しては、いろいろな問題場面を設定し文章題をつくる力を育てるとともに、その楽しさを味わわせていきたい。

4 関連と発展

1 年	1 年	1 年
のこりはいくつ ちがいはいくつ	ひきざん	ずをつかってかんがえよう
<ul style="list-style-type: none"> <li>・減法（減少，比較）の意味と式表示</li> <li>・10以下の数から1位数をひく減法の計算</li> <li>・加法か減法かの演算決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10いくつから1位数をひいて，差が1位数になる減法の計算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序数の加法，減法</li> <li>・異種の量の加法，減法</li> <li>・求大の場面の加法</li> <li>・求小の場面の減法</li> </ul>

5 指導と評価の計画（9時間取り扱い 本時は6時）


- 第1次 10いくつから1位数をひくひきざん ..... 4時間  
 第2次 ひきざんカード ..... 1時間

次	時	学習内容	評価の観点				評価規準 おおむね達成	基礎 基本	表現 力
			関	考	技	知			
3	①	問題場面をとらえ，ひき算の文章題（お話）をつくる。		○			減法の式から，減法の文章題（お話）を作ることができる。		○

- 第4次 カードゲーム ..... 2時間  
 第5次 れんしゅう ..... 1時間

6 本時の学習

- (1) 目標  
 減法になる場面の絵を見て，減少・比較の言葉を入れて，文章題（お話）をつくることができる。
- (2) 準備・資料  
 大型テレビ，場面絵，ひきざんお話カード，ワークシート
- (3) 展開  
 ..... は表現を促すポイント ..... は道徳性を養う視点

学習活動・内容	支援・評価□（太字はAの視点）	
	T 1	T 2
1 本時の学習課題を確認する。	・場面絵は，視覚的にとらえられるように工夫して提示する。	
 えを見て 13-6のしきになる ひきざんのおはなしをつくりましょう。		
・学習のめあてについて話し合う。		
ひきざんのおはなしには，どんなことばをつかえばいいかな。		
2 お話づくりをする。 （予想される例）	・ひき算のお話の基本を身に付けさせるために，ばらばらになっているカードを用意しておき，それらを組み立ててお話をつくるように助言する。 ・4文のうち余分な文が1文あるので，適切な3文のカードを組み合わせることを伝える。 ・2種類のカードが混ざっても混乱しないようにカードは色分けする。 ・カードを並べられた児童は，余分な1文を使わなかった理由について，近くの児童と話し合う。 ・カードに書いてある言葉が読み取れない児童に対してはカードを讀んでやり，内容を理解させる。	
・とりが13わいます。 6わとんでいきました。 のこりは なんわでしょう。 （減少・求残）	・できた問題は，チェックを入れる。 ・カードが正しく並べられた児童には，1文が残った理由を考えるように助言する。	
・赤い花が13本あります。 青い花が6本あります。 どちらがなん本おおいでしょう。 （比較・求差）		
・とりが13わいます。 6わとんでいきました。 どちらがなんわおおいでしょう。（誤答例）		

3 3文を組み合わせたカードをもとに話し合う。

4 本時のまとめをする。

ひきざんのおはなしには  
へるおはなし「のこりは」  
くらべるおはなし「ちがいは」  
「どちらが」  
ということばをつかう。

5 練習問題をする。

- (1) 絵を見て  $13 - 6$  の式になるお話をつくる。  
(2)  $13 - 6$  の式になるお話をつくる。

いちごが13こあります。  
6こたべました。のこりは  
なんこでしょう。

みどりのおはじきが13  
こあります。きいろいお  
はじきが6こあります。  
どちらがなんこおおいで  
しょう。

6 本時の学習の振り返りをし、次時の学習課題を確認する。

ひきざんのカードゲームをしよう。

- ・教師が故意に間違えたお話を話し合い、ひき算には減少と比較があり、それぞれに大切な言葉があることに気付くようにする。
- ・友達の発表をよく聞き、友達の考えを認め合うことができるようにする。
- ・減少、比較の文章題を表す言葉を確認しながら本時の学習を振り返る。

- ・練習問題の進め方を話す。
- ・減少と比較の場面を確実に理解させるために、色違いのワークシートを用意し、問題場面を想定してお話作りをするように促す。
- ・絵を見て、お話づくりができない児童には、お話の続きを書くことができるワークシートを用意する。
- ・ $13 - 6$ の場面絵をヒントにしながらかお話をつくるように促す。
- ・文章表現に関しては、たどたどしい表現であつても認めたり励ましたりして、楽しく問題づくりができるようにする。
- ・お話作りに戸惑っている児童には掲示物の絵を、参考に考えるように助言する。

評 絵とひき算の式から、場面に合った文章題(お話)をつくったり、**減少と比較を意識して自由に文章題(お話)をつくったり**することができる。  
(観察・ワークシート)

- ・本時の学習を振り返り、分かったことを発表する。
- ・次時の学習課題を知り意欲付けを図る。